

市民クラブ・視察研修報告

1. 日程

平成28年11月7日(月) ～ 11月9日(水)
 東京都新宿区 「公共空間を活用した賑わいの創出について」
 神奈川県横浜市 「横浜市スポーツ医科学センター概要について」
 神奈川県横浜市 「スポーツ推進計画について」
 埼玉県戸田市 「ICT・ALT教育について」

2. 参加者

刈谷市議会 市民クラブ(6名)
 佐原 充恭 伊藤 幸弘 山内 智彦
 黒川 智明 鈴木 浩二 中嶋 祥元

3. 活動報告

【視察内容、視察先の選定にあたり】

刈谷市の持続発展のために一番不足しているところは、貪欲さではないかと個人的に考えている。若者を引き付ける魅力づくり。市のコマーシャル、何か新しいものの誘致などすべてに保守的であると感じる。かねてから会派の重点方策の一つに、スポーツ振興を活用した賑わい、人口ビジョン小中教育のスポーツアカデミーなど提案している。市の規模感は異なるが、何に投資するか、具体的な施策は何か、先進事例を学ぶ

※ 東京都新宿区 「公共空間を利用した賑わいの創出について」

訪問日時：7日(月) 15:00～16:30

【視察のねらい】

- 街の賑わい創出に、時間帯で車道を歩行者に開放、カフェなど設置。また、区立公園でのイベント実施など、区民の集まる場所として賑わいづくりをしている。既存施設もアイデアで賑わいづくりができる施策を勉強する。

【報告事項】

- 道路を活用したオープンカフェ 新宿三丁目モア4番街 (Mixture of Ages 4th Street)
- ・区と新宿駅前商店街振興組合との協業
 - ・違法駐車、駐輪が目立ち、東口の窓口としてふさわしい環境づくりが必要
 - ・平成17年から道路占有許可の運用上の特例により、オープンカフェを仮設で社会実験を開始。平成23年再生特別法等の改正施行により、道路上に食事施設の設置許可が可能に。この制度を利用した全国初の事例。歩道はカフェ設置。車道は午後歩行者専用道路、カフェ営業時のみテーブルとイスを設置
 - ・道路占有時間：(4-9月) 12:00～21:30 (10-3月) 12:00～19:30

- ・デジタルサイネージなどの広告塔を設置
- ・樹木整備、管理は区、清掃等の環境整備などの運営は組合が実施
- ・区と新宿駅前商店街振興組合との占用特例適用概要



入り口のデジタル広告塔



歩道上に設置されたお店



時間帯でテーブルが置かれる

【効果】

- ◇ 街の雰囲気、風格の向上、来街者への安心感供与
- ◇ 収益は地域の環境整備に還元。地域協力による街の美化
- ◇ 違法駐車、駐輪、ホームレスの激減 など

【所感】

- 刈谷駅前線の改良時、ペDESTリアンデッキなどの回廊性アップの方策となる
- 人が多く来街する事が大前提。店の収益もあがっており、地域貢献へ還元できる
- 利用世代は若者である。魅力を感じてもらえる施策
- このエリア以外の施設など集客施設が必要

※新宿区 「区立公園を活かした賑わいの創出について」

【報告事項】

- 指定管理者と連携した公園活性化 区立 新宿中央公園
 - ・主な施設：水の広場、多目的運動公園、芝生広場、ちびっこ広場、トイレ7棟
 - (目的) 公園の使いやすさ、快適性の向上、民間の創意工夫を生かした管理・運営
 - ・指定管理者との基本協定で、公園の設置目的に合致し、管理業務を妨げない範囲で自主事業を実施する事が可能。自主事業は国業務計画書を提出し、事前承認

□新宿公園活用例

- ・水と緑のイブニングバー、今年は大スクリーンで映画を上映
- ・大牛肉博の開催
- ・TOKYO Outoside Festival (野外遊び、足湯などのイベント)
- ・新宿中央公園春まつり (ふれあい動物園)・・・区の要望としての事業

□効果

- ・イブニングバーイベントは好評、公園利用者アンケートでは、「リラックスできるイベント」「子ども向けイベント」などが求められた
- ・事業評価として、賑わいが出て緑の中で生き生きとしてきた。色々の試みにより公園の楽しみ方が多様化してきたなどの評価

- 官民一体となった地域活性化の取組み 区立 大久保公園
 - ・主な施設：スポーツ広場（アスファルトコンクリート舗装）
多目的広場（カラー舗装）
 - ・規模ではスケールメリットが無く、区として管理
（目的）歌舞伎町ルネッサンス
 1. クリーン作戦プロジェクト・環境美化、安全安心対策
 2. 地域活性化プロジェクト・新たな文化の創造と発信、賑わい
 3. まちづくりプロジェクト・快適な魅力あるまちづくり
 4. 喜兵衛プロジェクト・新たな文化の創造と発信、賑わい
 - ・イベント主催ができる団体
 - ※区（主催、共済、後援）、町会、振興組合、消防団等、
歌舞伎町タウンマネジメント（TMO）

□活用例

- ・ピアガーデン（オクトーバーフェスト）の開催
- ・ブラインドサッカー大会
- ・激辛グルメまつり
- ・沖縄グルメフェスタ IN 新宿、和牛万博

□使用料

- ・イベント主催者⇒TMOへの参加料。TMOは公園の占有料は無料（要綱あり）
- ・例）1～2日 平日83,700円/D、土日祝日101,000円/D

□課題

- ・近隣より、騒音、悪臭、などのクレームあり
- ・イベント内容の精査が必要（審査、基準、公益性の担保など）

【所感】

- 行政と地域の思い、方向性が合致したときに、アウトプットが出せるもの
- 区民に楽しんでいただける、話題になる、興味を引く取組み方が重要
- 例えばイベント等開催すれば、必ず問題課題は発生する。それを関係者で解決していく事が、まさに街の賑わいづくりではないでしょうか



※ 神奈川県横浜市 「横浜市スポーツ医科学センターについて」

訪問日時：8日（火）10：00～11：30

【視察のねらい】

□スポーツ振興に寄与する施設としてこの医科学センターがある。市民の健康づくりももちろんですが、トップアスリート養成などの機能として事例を学ぶ

【報告事項】

□日産スタジアム内にあり、スポーツ医科学に基づいた

・健康づくりの推進 ・スポーツ振興 ・競技選手の競技力向上 が役割

□横浜市体育協会の下部組織の位置づけ

□クリニックとスポーツセンターの機能を持つ。全員スポーツドクターの資格を持つ

□スポーツクリニック

・内科、循環器内科、整形外科、スポーツ整形外科、リハビリテーション科

□スポーツ施設

・大小アリーナ、25Mプール、トレーニングルーム、会議室・研修室

□特徴

・内科、循環器内科では、運動力法を処方する。怪我のリハビリなどアスレチックトレーナーの資格を持った理学療法士が対応

・スポーツプログラムサービス ・平成26年実績 延べ13,700人参加

・医学的検査、体力測定の結果から専門的フィードバック

・ジュニアスポーツの障害ゼロを目指してクリニックの開催

・国際競技レベルを持ったデフアスリートの支援 ・特定スポーツ支援10万円/人



1回/2年程洪水発生。右の写真のように浸水



運動療法などの施設。またアスリート養成、けが防止などの指導ができる施設。右はセンターがある日産スタジアム



※ 神奈川県横浜市 「横浜市スポーツ推進計画について」

訪問日時：8日（火）14：00～15：30

【視察のねらい】

- スポーツ振興の事例と効果、コストを確認したい

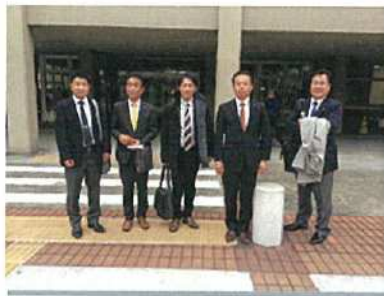
【報告事項】

- 横浜市体育協会は、公益財団法人としている
- 野球場、庭球場、プール、弓道場運動広場、体育館等の体育施設、学校開放などの施設数は多い。刈谷市の人口比比較で、一概に多少は比較できないが、テニスコート、弓道場、プールなどの施設が充実している
- 神奈川スケートリンクの平成27年12月に竣工。過去最大10カ所あったが、現在は2ヶ所。運営団体は、(公財)横浜市体育協会、敷地は市、地代は無償で貸与(債務が終了するまで)
 - ・オフィシャルパートナーの基本合意・・・(公財)横浜市体育協会、横浜銀行協働事業の開催
施設名：横浜銀行アイスアリーナ
- 横浜市体育館再整備事業
 - ・老朽化対策とサブアリーナ新設、関内のまちづくりリーディングプロジェクト
 - ・民間活力の利用、PFI(BTO方式)を事業手法
(Build Transfer Operate 民間事業者が資金調達、建設後所有権を公共に譲渡した上で、意地管理、運営を行う方式)
 - ・PFI事業と民間収益事業を一体公募
 - ・PFI事業はPFI事業を実施する民間業者を、指定管理者として指定
 - ・利用料金は指定管理者の収入とする。予定以上の収入があった場合は、その収入の一部を市の収入とするプロフィットシェアリングを導入
 - ・PFI事業の予定価格・・・約265億円
- 横浜市スポーツ推進計画の方針
 - ・身近なスポーツの場の確保に向け、廃校跡地、既存の公共スポーツ施設、私有地の未利用地、遊水池の有効活用等
 - ・大規模屋内スポーツ施設(スケート、武道場等)の再整備
 - ★学校跡地、私有地の有効活用についての要綱策定(横浜市広場・はらっぱ要綱)
(目的)遊休地、公共未利用地の広場、はらっぱを地域の人々の協力で設置・運営
 - ★学校体育施設の開放に関する要綱
(目的)地域住民のスポーツ・レクリエーション等の活動の場
運営団体は、学校毎に別に設置した文化スポーツクラブが行う。予約等の調整は、このクラブが実施する
- プロスポーツとの連携事業
 - ・各チームに委託契約を実施。地域貢献活動で、横浜FC、横浜ビーコルセアーズに学校での教室形式の地域貢献活動を委託
 - ・市イベントで各チームが親子教室を委託
 - ・市としては教育委員会とのつながりが重要とのこと

- ・学校訪問事業の開催（有料）
- ・市庁舎でチームの展示を実施
- ・オリンピックと連携した事業への取組み。スポーツフェスティバルへの派遣
★9件実施 1,046人参加
- ・オリンピック、パラリンピアンと連携した事業（平成28年度予算 6,055千）
★学校訪問事業 35件実施、12,532人参加
- ・JOC、横浜市パートナー都市協定

【所感】

- ・市、事業規模が異なるため、即採用できる事業は少ないと感じる。しかし如何に、プロチーム、オリンピックの協力を得る事はしっかりと協定している
- ・教育委員会との関わりが重要と言われていた。言い換えると子どもたちをターゲットに、どのように推進していくかが重要
- ・市⇒個人アスリートへの支援はしていないとのこと。オリンピックが色々な場面で、子どもたちと触れ合う機会を作っている事が重要
- ・地域の観点も漏らさず、地域スポーツリーダーの養成も方針に記載
- ・規模感、レベル感は違うが、目的は刈谷市も同様であり、一つずつ可能性を探っていきたい



横浜市役所前。関内駅のすぐ横にあります



横浜市役所すぐ近くに、横浜スタジアム、横浜中華街があります。人が集まる繁華街です



※ 埼玉県戸田市 「ICT・ALT教育について」

訪問日時：9日（火）10：00～12：00

【報告事項】

- 新学習指導要領を見据えた、ICT、ALT授業の考え方の説明
 - ・日々授業の充実の方針内に、読み書き計算以外にICT活用能力の育成と定着
 - ・ICT機器を活用した一斉、個別、協働学習の充実
 - ・市費非常勤職員の積極的活用
 - ・ICT環境の整備
 - ★全教室（大型テレビ、タブレットPC、実物投影装置、市道用デジタル教科書無線LAN環境
 - ★必要ソフト含め 60万円/台程度 全市内2,200台
 - 5年リース契約、5億円弱/年程度？ここははっきりとわからなかった

□ ICT、ALTそれぞれの授業を現場で参観



ICT授業では大型テレビで情報共有



パソコン1台/人で、学習ソフトで全員同じ問題を実施。状況・結果を共有できる



ALT授業では、先生と指導員で実施。
絵なども使い楽しく英語に触れる工夫



給食を頂きました。もちろん実費をお支払しました。メニューはあんかけつけ麺

【所感】

- ICT教育は、外注教育ソフトの導入と、その外注業者の支援指導員が一名
- コンピューター1台/人で、全員が同じ時間利用できるが、先生等の指導員が全員をフォローするのは大変そうです
- 子どもたちは、すでにソフトにも慣れていて問題なさそうです
- コスト大、運用をどう考えるか

□ ALT教育は英語を楽しむ、声に出すなどクイズ形式で実施するなど工夫が必要
この授業を校長も参観しており、授業の進め方で子どもたちが、とにかく英語を声に出す機会が少なかった事に、改善しなければいけないと言われていた。
まさに、知識をつける事も必要だが、見る、話すなど何を重点にしていくかが重要（4年生）

□ 授業のみならず、外国の方に触れる機会を増やす事も重要だと考えます
朝の挨拶からはじまり、授業やそれ以外もコミュニケーションの機会を増やす事ではないと感じます。

□ 前向きな取組みや、色々工夫されている実態を把握できました

以上